大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議⑥議事録

日時：平成16年10月16日(土)13時00分～15時05分
場所：四日市市総合会館7階 第2研修室
出席者：委員 別紙出欠表のとおり
事務局 商工課 平林課長、永田副参事、駒田勤労観光係長、中本主幹、待井技師

1. 市民から寄せられたパブリックコメント 事務局から紹介

2. 委員から寄せられた素案骨子に対する意見 委員より説明

○おどりフェスタをメインイベントとするということであるが、比較的近い名古屋に破壊的迫力を持ったにっぽんど真ん中祭りの存在がある。後発となる四日市が安易におどりフェスタの規模拡大するだけでは人は集まらないだろう。しかし、市民の圧倒的な参加及び安価な経費という面ではおどりフェスタしかないと思う。四日市ならではの特徴付けが必要。予選と本選も是非行って欲しい。規模の拡大は地域を巻き込んで行う必要があり、それには祭りの趣旨を地域が理解し組織化されて参加することが必要。太鼓については、市内には諏訪太鼓以外にも太鼓が存在することから、皆平等に表現ができる場を提供すべきと考える。みんなで楽しもうお祭り広場については当時練りに練ってネーミングしたが、今現在ではネーミングが時代にあつたものでないと感じる。協賛行事とすることは検討の余地はあると思う。開催場所については、将来的におどりフェスタの規模が発展したと想定すると、今の会場では収まらなくなる。緑地公園、垂坂公園、楠緑地公園等数箇所の会場に分散することが必要。分散した際はおどりフェスタのみでは盛り上がりには欠けるので、みんなで楽しもうお祭り広場も分散して開催してはどうかと思う。

○おおむね骨子のとおりでよいと思う。おどりフェスタについて「より気軽に参加できるよう」とあるが、「いつでも誰でも気軽に参加できるように」としていただきたい。コンテストについては、今の段階はまだ観光的な祭りにまでなっていないことから、現段階では取り入れるべきではないと思う。ある程度祭りが大きくなってからコンテストを取り入れるべきである。コンテストをするというのであれば協賛行事として行っていただきたい。実行委員会で努力して企画力・運営力を発揮していただくことを希望する。諏訪太鼓のコンテストにしても然りである。富田の鯨船は小学校に鯨船を寄付し学校行事として取り入れられており、地区をあげて応援している。このように山車の担い手を育成し伝承していくことが重要。骨子には夜間の山車出演はないとあるが、石取りや天王祭の山車は夜の山車である。これらの山車は呼ばないということか。また、地域の山車の出演は1度きりの演技のみではあまりにも失礼。各所で練りをしていただくべき。市民の祭りには市民が出るべきであり芸能際ではないことから、Kai-kou はやめるべきと考える。時期については賛成。場所は富田の鯨船が出演する場合、現在の場所では狭すぎ、所要時間も2時間ほどかかる。道路使用もJR・近鉄駅前等の主要箇所を使用して分散すべき。

欠席委員の意見は事務局より読み上げ。

3. 提言(素案)

委員全ての意見を盛り込んだわけではないが、最大公約数として素案を作成したので、事務局から説明いただきたい。

事務局から説明

補足説明：郷土文化財芸能に大名行列、御諏訪神輿が入っていないと後藤委員から指摘いただいたので、御諏訪神輿を素案に入れさせていただいた。大名行列についても「鯨船と神

輿」に入れさせていただくことを考えている。また、先ほど後藤委員からご指摘いただいた、夜間の山車出演については「昼間の出演のみとし、踊り企画への出演・夜間出演など特別な演出はしない。」という文章を削除させていただく。

< 素案に対する各委員意見 >

以前サンバフェスティバルが実施されていた頃は多くの企業団体が参加していた。四日市にはコンビナート等多くの企業があることから、祭りに活気を出すために企業の参加を呼びかけるべき。学生にボランティアを呼びかけるのであれば、できる限り早い時期に周知を図るべきである。環境福祉のクラブや伊勢型紙のクラブ、諏訪太鼓に参加している学生もいることから、呼びかければ人は集まると思う。

四日市大学で雑学フェスティバルを行い、2,000人程度の来場者があった。伊勢型紙やバッジにプリントする行事には多くの人が集まった。千葉の船橋では自衛隊が主催となって花火大会と花見を行っている。その中で、香具師ではなく自衛隊が多くの特色ある企画を持った露店を出店している。

素案については特に意見は無いが、今までの大四日市まつりとの変更点が一目でわかるよう箇条書きにするなど、概要版があればよりわかりやすいと思う。

夏の祭りは踊りをメインイベントとすることで特に意見はない。会場については、山車は三滝通り以外でという意見もあるが、現在三滝通りは諏訪新道までしか使っていないことから、柳通りまで使用すれば対応できると思う。会場は分散しないほうが良いと思う。祭りは見てもらうことが大事。最初から会場を広げなくても良いと思う。

基本的には素案に賛成。おどりフェスタについてであるが、企業参加を促進する意味でもカーニバル方式や仮装行列等を取り入れたらにぎやかになるのではないかと。企業が参加しやすい環境を作ることが必要。また、新旧まつりは場所を分けるべきと思う。例えばおどりフェスタは三滝通り、山車は観光客や高齢者が見やすい場所で行うことを検討すべきと思う。

素案については特に意見はない。四山文協では、来年以降の夏祭りは任意参加ということが決まっている。来年度の夏祭りには山車は休もうかという話もあるが、せっかく夏祭りに見えた市民が残念がるのではないかと危惧しており、たとえ1台でも山車は出ることを考えている。また3年に1回は全ての山車が集まる等も考えている。

踊りの規模を大きくするのであれば、踊りだけを取り上げなければ規模は大きくならないと思う。おどりフェスタへの参加呼びかけの際、地区に山車や太鼓があるのでおどりフェスタには出られないと言われるところが多い。踊りの規模が大きい祭りは踊りのみである。山車を見に来る人が多い中、山車を切り離すのは不安があるが、思い切って方向転換する必要もあるのではないかと。また、にっぽんど真ん中祭りは毎年規模が大きくなっているが、資金については行政は関与せず、大学生が中心になって、参加費と企業からの協賛金で運営している。毎年赤字続きで昨年も2,000万円赤字であった。昨年の赤字は今年の祭りの収益で補填するという自転車操業を行っている。四日市も踊りのみとした場合、収支のバランスが取れるのかという不安はある。また、現在四日市では参加費を徴収していないことから、参加費を徴収した場合、はたして参加者が集まるのかという不安もある。

今年度おどりフェスタの審査員をさせていただいたが、非常に盛り上がった。会場は諏訪新道のほかに近鉄四日市駅とJR四日市駅間道路の片側車線を利用すれば、駅を降りてすぐに目に付いて良いのではないかと。

素案にあるように市民にもっと参加してもらうことが重要。自分自身、諏訪太鼓の事務局も担っているため、この見直しもしていきたいと考えている。過去サンバフェスティバルの事務局をした際にコンビナート企業にも参加を呼びかけたが、次第に参加が少なくなっていった。時代に合った祭りに変えていく必要があると思う。

祭りの開催時期を桑名・鈴鹿の祭りとずらすのは賛成。おどりフェスタという声大きい鳴子を持って踊るだけでなく、高齢者も参加できるよう配慮が必要。最近では60代以上の女性にフォークダンスが広まっており、先日も伊勢で500人位のフォークダンスの集まりがあったと聞い

ている。また、屋外に板を張ったりして、インドアダンスであるソーシャルダンス等が踊れる場所を作るのも良いのではないか。他の祭りのものまねだけではなく、四日市ならではの特産等を利用した特色作りも大事である。

全体的には素案に賛成である。おどりフェスタ参加者や諏訪太鼓演奏者は若い年代であり、コンテスト形式にしないと張り合いがないのではと思う。郷土文化財芸能については、市民や観光客がこの方法で納得するのかという不安はある。

「郷土文化財芸能」というネーミングについて、あくまでこれは事務局案であることから、文化財と芸能は違うことを示すよう「郷土文化財・芸能」とすることも可能である。

どこで何をやるかという件についてはもう少し検討が必要である。

基本的に素案には賛成である。おどりフェスタを中心にするというのであれば、もっと参加者を増やさなければならない。そのためには、もっと早い時期からパンフレットや踊り方がわかるようなビデオを作って、アピールしていくことが必要。各地区市民センターから情報を得ながら社協等の団体に対してアクションを起こすのも有効と考える。おどりフェスタに力を入れるのであれば実行委員会のおどりフェスタ実行委員会を立ち上げることも効果があるのではないかと思う。現在、四日市駅を降りたとき祭りを開催しているのが良くわからないので、問題は多いと思うが近鉄四日市駅と三滝通り間道路も会場とし、山車が移動して三滝通りまで人を誘導できれば良いと思う。

修正すべき項目として 場所の問題 コンテストの開催方法 企業又は団体の参加（魅力ある企画）であるが、具体的な意見があれば発言していただきたい。

市民総踊りを市民の夕べはおどりフェスタの一般参加部門に移行を呼びかけるとある。一方これらの行事は主催行事ではなく協賛行事とされている。これは移行すれば主催行事にするという意味なのか。

協賛行事として参加するか、おどりフェスタへ参加するかという選択肢があると考えられるが、基本的にはメイン行事を育てるという考えから、おどりフェスタへの参加を呼びかけたいと考えている。

みんなで楽しもうお祭り広場の参加者である音楽バンドがおどりフェスタの前座を務める形で参加することも考えているのか。

基本的に踊り子を増やすという考え方である。したがって、みんなで楽しもうお祭り広場参加者も踊り子として参加していただきたいと考えている。どうしても音楽で参加したいということであれば、主催行事とは切り離して協賛行事でお願いしたいと考えている。

踊りがテーマという前提がある。一般参加部門はおどりの内容を変える等、市民が参加しやすいよう考える必要はあるだろう。

踊りをメインとするなら、踊りに経費をかけて、他の行事とは差別化を図るべきである。

今後、高齢化が進む中高齢者が参加できる盆踊りは必要。市民の夕べではグループだけではなく個人の参加も多く、一市民としてもこの火を消すことはできない。

幼稚園に通う自分の娘はリトルおどりフェスタに参加している。踊りは祭りの時だけでなく、運動会の時にもオープニングとして踊り（リトルおどりフェスタと同様の踊り）を行っている。もっと学校や幼稚園に参加を呼びかけるべきであり、たとえば教育委員会から呼びかけを行ってもらう等違う角度からのアプローチも必要ではないか。

市内すべての幼稚園・学校等に統一して広め、学校行事として踊りをカリキュラムに組んでもらえば、祭りのために覚えるのではなく、自然と四日市市民に踊りが浸透していく。

来年2月7日に楠町と四日市市が合併する。合併記念行事として楠町鯨船と四日市市鯨船の合同演技を行う考えはあるか。

意図としてはある。

大入道は老朽化しており、演技中の安全面に不安がある。修理を名古屋の業者に依頼しているところであるが、修理に半年～9ヶ月の月日を要する。したがって、大入道については来年度の夏祭りは休ませていただきたいと考えている。

市民総踊り等のおどりフェスタへの移行は決定しているのか。

本会議は提言をまとめる場であることから、実行委員会で決定することとなる。

郷土文化財芸能は種類別の出演となっているが、該当山車等以外は参加しなくても良いということになるのか。

行事をどのように絞り込んで対外的に発信していくかという中で提案させていただいているのが おどりフェスタをメイン行事として明確に出す 山車の出演については、夏まつりへの山車出演が任意となったことを受け、その年のテーマは明確に出す必要があるということになった。テーマ以外の山車を出すかどうかは実行委員会で検討することとなる。

毎年出するために寄付を集めているのに、毎年出なくてもよいといわれるのはどうなのか。また大四日市まつりの8～9割は大入道についてであるが、大入道は毎年でないことになるのか。

当初、山車が秋祭りに移行したいという話があったことから、本会議を設置した経緯がある。今後の祭りについて、祭りに山車が無くてもよいのかという議論をした結果、やはり夏祭りにも山車に出ていただきたいという結論となった。ただ、年2回山車を出すのは難しいという山車側の意見もいただいていることから、テーマ別の出演として負担を軽くすることを提案したものである。

本会議においてできる限り市民の皆さんに発信しながら議論しているのは、事前に企画が変わったことを周知し誤解を招かないようにするためである。

山車の出演をなぜテーマ別の出演としたのか、考え方を明記すべき。

本日いただいた意見を基に素案を訂正し、お示しさせていただく。11月11日に市長に提言させていただく予定である。

< 次回開催日程 >

次回開催日は11月6日(土)09時30分～ じばさん三重5階情報交換室